

# 戦争が駆け足でやって来る！（その8）

## 「『反日・売国』のマスコミや左翼勢力はつぶせ！」百田尚樹

すでにマスコミでも大きく話題になっているが、6月25日に自民党若手議員が開いた勉強会において作家の百田尚樹は「マスコミは日本の国をいかに良くするかという気持ちを持ってほしい。反日とか売国とか、日本を陥れるとしか思えない記事が多い。日本が立派な国になるかということを考えて記事を書いてほしい。」「沖縄タイムスと琉球新報は左翼勢力に乗っ取られている。沖縄の二つの新聞はつぶさないといけない」と話した。そして参加していた議員からは「マスコミを懲らしめるには、広告収入をなくせばいい」（大西英男衆院議員・東京16区）「沖縄世論を正しい方向に持っていくために、どのようなことをするか。左翼勢力に乗っ取られている現状において、何とか知恵をいただきたい。」（長尾敬衆院議員・比例近畿）などと発言した。

こうした報道圧力発言が問題になると、自民党は勉強会を主催した木原稔青年局長（衆院議員・熊本一区）を一年間の役職停止処分にするとう発表した。しかし自民党総裁である安倍は「私はその場所にいた訳ではないので、責任の取りようがない…」などと開き直り、未だに謝罪していない。それは、安倍自身も彼らと同じ考えであることを自ら認めたことでもある。百田も安倍のブレーンであり、NHKの経営委員に抜擢していたことから明らかである。

## 安倍はチンピラ以下？こんな男に日本をまかせていいのか？

そして同じ日に自民党内のリベラル系議員たちが、漫画家の小林よしのりを招いて勉強会を予定していたが、自民党執行部により中止にさせられていた。小林よしのりは保守派であるが安倍のやり方を批判しているために圧力をかけたのだ。

まさに安倍の政治手法とは、テレビ朝日・NHKへの介入にもあるように「自分に批判的な勢力には脅しをかけ、批判されても論理的に反論できず『早く質問しろよ』『大げさなんだよ』（辻本議員の自衛隊員の命についての質問に）とヤジを飛ばすことしかできない」というチンピラ以下の政治姿勢しかない。

こうした中で沖縄の新聞2紙は「沖縄だけの問題ではない。メディアへの攻撃は『言論の自由』への挑戦であり、本土メディアも覚悟が必要になる。」「普天間や新基地建設作業が進む辺野古で今、何が起きているのか。安保法案が県民、国民生活に何をもたらすのか。報道機関は時に権力に対して『ノー』を言う使命がある。」（沖縄タイムス）

「自民党は4人の議員を処分したが、安倍首相と親密な人気作家が言論封殺と県民への侮辱を帯びた基地形成の虚構をはやし立て、多くの議員が同調した事実は消せない。沖縄の苦難の戦後史への無知と無責任、傲慢で危険な思考回路がくっきり照らされた。国会で謝罪を拒んだ首相自身の認識も厳しく問われている。」（琉球新報）

**「無謀な戦争に突き進んだのは、政治圧力に屈した報道機関が嘘の情報を流し続けたから。」**  
**（元白梅学徒隊・中山きくさん）**